

本巢市

船来山のふるさと学習の

取り組み

地域の実態

本巢市は濃尾平野の縁辺部に位置し、平成一六年二月に本巢町・真正町・糸貫町・根尾村が合併して誕生しました。東西一七km、南北四三kmの市で、北は福井県、西は山梨市・岐阜市、東は揖斐川町・大野町、南は瑞穂市・北方町と接している人口約三万五千人の市です。今回は、本巢市の中心に位置する船来山を中心として、取り組んでいるふるさと学習の取り組みを紹介いたします。

地域の名産「富有柿」を学ぶ

本巢市の名産「富有柿」は、御所柿から生まれた柿で、明治二五年に福島才治氏により富有柿と名付けられた柿です。古くは慶長三年（一五九九）に、春近村（現在の本巢市春近）から枝柿四百十個を税として納めた記録があります。明治四〇年には、本巢市郡府の松尾勝次郎、松太



船来山から濃尾平野を望む

郎によって植栽され広められました。船来山は富有柿畑の開墾がなされ、かつては山全体に富有柿が栽培されていました。船来山の麓にある富有柿の里では、毎年秋に小学生向けにふるさと学習が開催されています。来場した児童は富有柿の歴史を学び、園内の世界の柿園でたわわに実った柿を見学します。選果場では地元の方々が、柿を選別する様子を見学します。



本巢小学校見学の様子

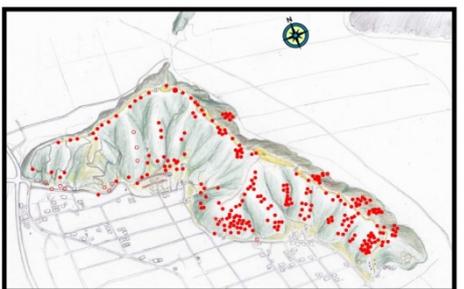


船来山古墳群から濃尾平野を望む

国史跡を目指す船来山古墳群とふるさと学習の取り組み

船来山には、古墳時代には多くの古墳が造られました。聖なる山として、船来山から見渡せる濃尾平野の広い地域から有力豪族が集結し、尾根から山麓まで古墳を造ったと言われています。現在確認されている古墳は二九〇基にもほり、圧倒的な数を誇る大古墳群です。本巢市は現在、船来山古墳群を国指定史跡にするために全力で取り組んでいます。

平成二十八年四月から、本巢市の全小学校の六年生約四百名は、社会の授業で古墳時代の歴史を学ぶ際に、古墳と柿の館に来館し、船来山古墳群の歴史を学ぶ取り組みが始まりました。本巢市ならではの特色ある教



船来山古墳群を空から見た絵
(赤い点がすべて古墳)

育の場として、船来山古墳群を保存活用するプロジェクトの一環です。

語りべボランティアの案内のもと、本巢市の宝物の船来山古墳群を学びます。生きた資料として船来山古墳群とその出土品を見学し、学習効果を高めることが狙いです。ボランティアによる教科書の内容をもとに作られた歴史創作紙芝居の上演を見学したり、古墳時代の衣装を着るなどの体験もします。教科書に載っている古墳出土品と同じ出土品を見学することで、教科書に載っているような歴史が、自分たちの住む地元の本巢市にあることを学んでいます。



真桑小学校見学の様子

ふるさと学習「ロマンプロジェクト」の取り組み

合併前から、年二回の船来山赤彩古墳の館特別開館が開催されていましたが、合併後は、より本業市の歴史と船来山古墳群への周知と理解を募るために、特別開館時に土器づくりなどを行う歴史体験教室を開催しています。また専門家の講師の案内のもと、より深く歴史を学び現地見学を行う歴史文化探訪セミナーを行っています。熱心に受講してください。市民ボランティアの育成を図り、語のべボランティアが誕生しました。

と学習「ロマンプロジェクト」を開始しました。ロマンプロジェクトの中では、従来の講座に加え、岐阜農林高等学校の生徒と古墳の測量調査を行ったり、里山調査の成果を教えるもったり、船来山古墳群を保全する草刈ボランティアを行っています。



船来山で草刈ボランティアの記念撮影の様子

平成二十六年年度からは、夏休みの時期などに、将来の手法となるような他市町や他県の古墳公園の見学を開始しました。平成二十七年年度からは船来山古墳群の未来を考えてワークショップを開催しています。昨年度は基本構想策定のための体験学習・意見交流会を行いました。小学生の児童も大人に交じって、船来山の現状と将来目指したい姿を意見交換しました。古墳を保全すること

ともに、信仰の山、里山の貴重な自然もあることから、先人の想い、知恵、技を体感できる「古代と未来のかけ橋 船来山古墳群」を基本的な想いとして、古墳の保全と濃尾平野が一望できる船来山の自然環境や景観、歴史、文化資源との一体的な保存管理、整備活用、市民や地域の参画に基づく持続可能な維持管理・運営の体制づくりを進めることを方針として基本方針を策定しました。



ワークショップでの小学生参加者による発表

このほかロマンプロジェクトでは、市内の遺跡と船来山古墳群をぐるりとまわって見学する構想のもとで、樽見鉄道やもとバスを活用した市内の遺跡めぐり、ルートづくりにも取り組んでいます。



公共交通を活用した遺跡めぐり

船来山を本業市ならではの特色ある学習の場にする

現在本業市では、教員の先生方による本業市小中学校教育研究会によって、教科書副読本「もとのくらし」を改定し、船来山古墳群を掲載する取り組みが進められています。この副読本によって、本業市の児童生徒が、よりアクティブな学習をすることが出来るようになります。自分で疑問点を見つけ、自分で調べて課題を解決する等のより深い学びをすることが出来るようになります。私たちは、次世代を担う子どもたちから、さらに次世代へつなぐ語りべが誕生することを願い、これからも取り組んでいきます。